

「あいさつの大切さを教えてくれたおじさん」

豊後高田市立桂陽小学校6年 土谷 百合花

今年、最高学年6年生になった私は、「気持ちのよいあいさつをする」ことを1番の目標にして、笑顔で自分から、気持ちをこめてあいさつをしています。

でも、私は3年生くらいまでは、あいさつをすることがはかしくてまったくできていませんでした。いつも下を向いて小さな声で言っていました。

そんな私がなぜ、「あいさつ」の大切さに気づいたのかというと、一人のおじさんとの出会いがきっかけでした。

そのおじさんは、学校から帰る私を見つけると、家から出てきて、

「お帰り。今日も天気がいいね。」

と、毎日、ニコニコしながら話しかけてくれました。おじさんと学校の話をしていると、ちょっといやなことがあった日も、ずっと心が明るく晴れていました。とっても明るいおじさんは、私に元気を与えてくれていたのです。

ところが、4年生になったころからか、おじさんの姿を見るのが少なくなりました。会っても「お帰り。」の一言だけでした。明るいおじさんが別人のように暗くなっていく様子が私には不思議で心配でした。

2学期になり、運動会の招待状を配りに行ったとき、その原因が分かりました。玄関から、仏さんに若い女性の写真がかざってあるのが見えたのです。えっ！と思いながら立ち止まっていると、近所のおばさんがおじさんの娘さんが亡くなったことを教えてくれました。

家族が亡くなるという悲しさを想像するとおじさんの心が少し分かったように思いました。そんなおじさんに何もしてあげられなかったことがくやしかったです。その時の気持ちは今後も忘れることはないと思います。

私に何ができるのかを一生けん命に考えました。そして、いつも私の心を元気にしてくれたおじさんを今度は私が少しでも元気にしてあげたいと思いました。

その日から、毎日毎日、おじさんのあいさつを思い出しながら、だれかが明るくなれるようなあいさつを続けていきました。

でも、おじさんは前のように元気になることはありませんでした。いつの間にか引っこしてしまったのでとても残念でしたが、おじさんが教えてくれた「あいさつで人の心を元気にする」ということは、私の心に深くきざまれました。

「私もだれかを元気にする」ことができる！と思うとわくわくします。こんな素晴らしい経験をさせてくれたおじさんに感謝しながら、これからも心をこめて、出会った人にあいさつをしてきたいと思います。

いつかおじさんに会って、「おじさん、あいさつってすごいですね。おじさんに出会ってあいさつの素晴らしさが分かったよ。こんな大切なことを教えてくれてありがとう」と伝えたいです。